

算命学中庸

【初年】 5 1 回目

5 1 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【運勢論】

【初年】 5 1 回目 【運勢論】 01

□ 運勢論 (うんせいろん)

これからは段々と、運勢を観ていく技法を取り入れた勉強が多くなります。

ここでは「運勢」の勉強をします。

最初に運勢についての考え方で、知っておいて頂きたいことがあります。

「たとえば」 なにか失敗をしてしまったときに――、
「こうなったのはあの人のせいだ」と、人のせいにしてしまおうとか、あるいは「自分がいけなかったんだ」というふうに自分を責めてしまうこともあります。

物事がうまくいったときとか、幸福を得たときにも、おなじように、「あの人のお陰で今日がある……」と、感謝することもあるでしょう。

あるいは「自分なりに頑張ったから、ここまでやって来られた」と、自分を誉めることもあるでしょう。

その人によって、個々の考え方があると思いますが、算命学は「なんでこうなったのか……」という根本的な原因を自然界に求めます。

人間は自然物であるという自然思想に基づいています。

自然思想 ⇒ 人間は自然物である

自然思想については、最初の頃にご説明したように、どんな人でも自分の意志で生まれてくる人はいない。

〔自分は男に生まれたい〕とか〔女に生まれたい〕と
思って、^{いま}現在の自分に生まれてきたわけではない。
それらの全てが自分の意志とは無関係で、此の世に生
まれてきた。そして、人類も自然の産物の一つだとい
うふうに考えているわけです。
このような思想にご異論を唱える方もおられると思いますが、
算命学における考え方なのです。

そして、人間は自然物で、自然の意志によって生まれ
てきたのなら……なぜ自然が人間を生み出して、自分
という人間をこの世に送り出したのだろう。
それは“自然が人間に役目を与えた”といえるのでは
ないかと考えたのです。

自然が人間に役目を与えた

〔たとえば〕自分は明るい性格ですが、負けず嫌いで
気が強いです。でも、このようなことは得意です。
というふうに、それぞれの特質・個性がありますが、
その個性も自分の意志で選んだわけではない……。

それなのに、一人一人違った個性をもっているということは、その人にしか出来ない役目があり、その役目を与えられて、生まれてきたはずである。このように算命学は捉えているのです。

「その人物にしかできない、何らかの役目を与えられている。その役目は宿命どおりに生きることである」と算命学では位置づけています。

自然が人間に **役目** を与えた



宿命どおりに生きること

宿命どおりに生きることが、その人に与えられた役目だと考えていまして……、

〔たとえば〕自分に禄存星という星があるとします。禄存星は魅力本能の星で、人に親切で優しい星です。と習いました。

ここまでは最初の頃にでてきた算命学の考え方です。

その人物に禄存星という星を与えられたのであれば、世の中で禄存星の質をしっかりと発揮して、禄存星を

活かす生き方をすることで、役目を果たすことになります。

そうすれば〔禄存星〕を消化することになると考えているのです。その姿を「宿命どおりに生きる」という表現を算命学ではするわけです。

あるいは、身強の星をもつ人は、エネルギーをたくさん与えられていますから、強星を与えられていない人よりもエネルギーをどんどん消費する（つかう）生き方をすれば、その宿命が生きてくるし、結果的に世の中にとっても、自然にとっても役目を果たすことにつながり、その人にとっての宿命どおりの生き方だとしているのです。

なにか**漠然**^{ばくぜん}とした考え方だな……と思われる方もおられるでしょうが、だんだんと理解されます。

これから“運勢”を観ていくような技法が出てきますが、そのなかには「結婚運に**恵**^{めぐ}まれていない宿命」もでてきます。

結婚運の悪い宿命もあります。

☞ 結婚運の悪い宿命

さきほど——禄存星を与えられた人は、親切でやさしい星だから、しっかりとその星の質を活かして、まわりの人たちに親切で優しく接することが、その人に与えられた役目を果たしていることにつながります。宿命どおりに生きたことになります。といたしました。

それを“結婚”に当て嵌めて考えます。

婚運の悪い宿命の人がいたとします。

その人が「宿命どおりに生きなさい」といわれたら、どうすればよいのでしょうか……？

結婚運が悪い宿命の人であっても、宿命どおりに生きないと、与えられた役目を果たせないわけです。

結婚運の悪い宿命の人が結婚して、夫婦仲も良くて、子供たちも順調に育って、幸せな家庭を築いて生活しています。その人は「宿命どおりに生きた」といえるのでしょうか？

どういう状況・状態であれば、宿命どおりといえるのでしょうか……。

「結婚運の悪い宿命」というのもあります。

㊤ 結婚運が悪いので、相手に巡り会うこともできず、結婚できなくて、一生独身で寂しく死んで行きましたという人生だとしたら、なんのために生まれてきたのでしょうか……。おかしいですよ。

㊥ 結婚運の悪い人が結婚しました。

でも、結局うまくいかなくて、結婚は失敗に終わりました。となったら、宿命どおりに生きたといえるのでしょうか？

それで「その人物は役目を果たしました」というのであれば……。おかしいですよ。

㊦ 「結婚運が悪いから、貴方離婚になったのよ」といわれて、「それでもいいのよ、宿命どおりだから……」
というのは……。おかしいですよ。

「財運の悪い宿命」というのもあります。

財運の悪い宿命（厳密には、財運と金運は異なります）

⑩ 財運の悪い宿命の人が「自分は財運が悪いんだよ」といって、貧乏してお金で苦勞した人生を送ったら、宿命どおりに生きたといえるのでしょうか？
いえるとしたら……算命学を勉強した意味が無いですよね。

あるいは「健康運の悪い宿命」というのも出てきます。

健康運の悪い宿命

⑪ 健康運の悪い宿命の人が、小さい頃から病弱で早死にしました。「あっそう、あの人健康運が悪いから、早く死んで宿命どおりだったね」と……これはおかしいですよ。

①②③④⑤といくつかの例を挙げました。

これらのすべてにいえることなのですが➡

これらのすべてにいえることなのですが、それぞれの宿命に適合した生き方があります。

結婚運の悪い宿命

財運の悪い宿命

健康運の悪い宿命

これらの宿命に合った生き方がある

結婚運の悪い宿命の人が「結婚で幸せになる方法」があるのです。

財運の悪い宿命の人が、みんなお金で困っているとは、決まっています。お金で苦労しない人生にするには、このような生き方をしなさいという生き方があります。

健康運が悪い宿命の人、みんな早く死ぬわけではないのです。長生きする生き方があります。

⇒ そうしますと、「結婚運の悪い宿命」を例にして、もう少し具体的に、どういう生き方をすれば良いのかを考えます。

⇒ 「結婚運の悪い宿命」に合う結婚とは……。

結婚運の悪い宿命に合う結婚というのがあります。

結婚運の悪い人だからといって、結婚して不幸になることが宿命どおりではないのです。

結婚運が悪い宿命の人に合った結婚の姿があります。

そういう結婚をしないから、結婚して不幸になってしまうのです。

結婚運の悪い宿命の人が、結婚して不幸になったら、それは宿命に沿っていないからです。

「結婚運が悪い」というのは、言葉を変えれば――

「運勢上で結婚運が崩^{くず}れている」とか、

「結婚のバランス（つりあい）が悪い」からです。

結婚運が壊れている

結婚運のバランスが悪い

このような姿になっている宿命があるのです。

つまり「結婚運が宿命のなかで壊^{こわ}れている」そのような宿命の人物はおられます。

あるいは、その人の結婚運を観ると、とてもバランスが悪い結婚の形になっている宿命もあります。
しかし——その宿命の人に適合する結婚もあるのです。

☞ 結婚運のバランスが悪い人は、バランスの悪い結婚をすれば、宿命どおりの結婚になります。

ふっ ^あ 釣り合いの結婚をすれば、宿命が ^い 生きて、結婚はうまく行きます。結婚運のバランスの悪い人は、バランスの悪い結婚をすれば、宿命に合った結婚ということになります。

結婚運が壊れているわけですから、それなら壊れた形の結婚をすればよいのです。

それが宿命に適合していることになります。

壊れた形の結婚をすれば、その人は幸せになれます。

そうしますと、「壊れた形・つり合いの取れない結婚」とは……、具体的にどのような結婚があるのでしょうか。

つり合いが取れない結婚

(家柄に大きく差がある)

現代はあまりいないかも知れません。

昔は……殿様がお百姓さんの娘と結婚したら、育った環境も家柄も違いますから、大きく釣り合い(バランス)が取れていないわけです

お殿様のところへ、お百姓さんの娘がお嫁にきたら、その結婚は大変バランスが悪いということになります。このように考えるわけです。

釣り合いがとれていない結婚をすれば、宿命に合っているわけです。

そういう結婚が望まれます。

いま
現在だと、バランスの悪い結婚というのは、どのような形があるでしょう。

再婚の相手との結婚とかは当て嵌まりますよ。

再婚の相手



相手が子連れだとなお良い

その相手(再婚者)との結婚で、相手が子連れだとすれば、それはなお良いのです。

再婚者の相手は、前の旦那か、奥さんとの間に子供がいます。そういう相手と結婚したら、この人は他人の子供を育てなくてなりません。もうそれだけで、最初からバランスが悪いのです。すでにどこか崩れている、どこかが壊れているような結婚だとなるわけです。

最初から、他人の子供を育ててはいけない、そのような結婚はまっとうな結婚とは異なります。

でも、結婚運が壊れている宿命の人には、このような結婚をするとうまくいきます。宿命に合っている結婚だからです。結婚の姿にこだわってはいけません。

このような結婚の形は、初めから結婚自体に障害があるのとおなじだと考えるわけです。

でも、それだからこそ良いのです。

結婚運の悪い宿命の人は、このような結婚は合っています。

最初から結婚に、問題を抱えているのとおなじなわけです。

その人自身が問題を含んだ結婚運（結婚運が崩れている）をもっているわけですから、このような結婚をするとうまく行きます。

だから、再婚者が相手でも良いわけです。

ほかにどのような結婚が向いているのでしょうか……？

年齢差の大きい結婚

年齢差の大きい結婚については、条件があります。

算命学には、少なくとも「10歳以上の年齢差」という決まりがあります。

年齢差の大きい結婚 ⇒ 10歳以上

〔9歳〕は駄目ですよ。

〔10歳〕以上——離れてないとダメです。

なぜかといえば、10年経つと暦こよみのうえでも「甲乙丙丁戊己庚辛壬癸」と、十干のすべてがまわります。

この一巡り（ひとめぐり）以上離れていると、世代が違ふと考えるのです。

『10年一昔』といいますが、10年以上も生まれ育った時代が違えば、世代が違ふと考えています。

しかし、「10年以内だと同世代」だと考えます。

結婚運の悪い宿命の人で、年齢差の大きい結婚というのは、相手との年齢差が〔10歳〕以上です。

年齢が離れた人と結婚する場合、10歳以上も歳が離れていますから、これはバランスの悪い結婚です。

結婚運の悪い宿命の人には適合しています。

☞ 逆に——「結婚運の良い宿命の人」もたくさんおられるわけです。

「結婚運の良い宿命の人」が、「結婚運の悪い宿命」の結婚をしてしまうと、うまく行かなくなります。

結婚運が良い宿命には、釣り合いの良くとれた結婚がマッチします。

そうであるのに……釣り合いのとれていないバランスの悪い結婚をしたとすれば、宿命から外れた結婚ということになります。

☞ かなり前に話題になりましたが、小柳ルミ子さん（歌手）と結婚して、別れた大澄賢也さん（ダンサー）の2人です。

大澄さんは結婚運がよい宿命といえます。その人が十歳以上も年上の小柳ルミさんと結婚したわけです。

彼は宿命に合わない悪い結婚をしたことになります。

＊ 小柳 ルミ子 1952(s27)-7-2

	己	丙	壬		司禄星	天堂星	9 壬子
寅	酉	午	辰	鳳閣星	龍高星	石門星	19 癸丑
卯			乙	天貴星	玉堂星	天禄星	29 甲寅
		己	癸				39 乙卯
	辛	丁	戊				49 丙辰

1988 「戊辰」 暮れに意気投合

1988 「戊辰 1-6(入籍)小柳ルミ子 [36 歳]

＊ 大澄 賢也 1965(s40)-10-26

	癸	丙	乙		鳳閣星	天報星	7 乙酉
寅	丑	戌	巳	車騎星	牽牛星	司禄星	17 甲申
卯	癸	辛	戊	天南星	司禄星	天堂星	27 癸未
	辛	丁	庚				37 壬午
	己	戊	丙				47 辛巳

1988 「戊辰 1-6(入籍)大澄賢也 [23 歳]

このお二人にはさまざまなことがいえますが……。

小柳ルミ子さんの宿命には、結婚相手の（夫）がいまいませんから結婚運の悪い女性です。だからといって、結婚できないということではありません。彼女の宿命に即した結婚をすればよいのです。

大澄賢也さんは結婚運の良い宿命といえますが、女だらけの宿命です。彼が小柳さんと結婚したとき、ほかに交際していた女性がいてもおかしくないと言式に書いてあります。

⇒ 年齢が離れていると結婚が、うまくいかないとは決まっています。

年齢が近い結婚がうまくいくとも決まっています。

年齢が離れてたいたほうが、宿命に合っている人もいれば、結婚相手と年齢的にも釣り合いが取れていたほうが良い人もいます。それは宿命によります。

⇒ 結婚運の悪い宿命なら、相手の身体が悪ければよいのでは……と考える方もおられるでしょう。

相手が病弱ということでも、うまく行くのですが、病弱以前に……その人物が病弱になること自体、別の

要因があるとも考えられますので、病弱とかではないほうがよいです。

なぜなら、本来の宿命から、どこか外れている部分があるために病弱になるとか、障害になって出てしまうとか、そういう問題も重なってきます。

実際的には、相手が病弱ではなくて、二人ともに元気で幸せになるほうがより良いわけです。

⇒ 国際結婚では、二人が一緒に生活していくときに、相手が外国人だと、生まれ育った文化・習慣も大きく違います。言葉も通じない部分があるでしょう。

国際結婚は、最初から相手との間に、溝みぞがあるようなものです。最初から溝があるわけですから、溝のある箇所だけ壊れています。国際結婚が悪いということではなくて、そういう考え方をします。

国際結婚

国際結婚は、結婚運が悪い宿命の人には向いています。最初から相手との間に溝があるということは、初めから、その結婚はどこか壊れているようなものです。むしろ宿命に合っているのです。

☞ 別居結婚はどのような理由でも構いません。

夫婦が自分達の意志で別居しているのでもよいです。
あるいは、どちらかが単身赴任で、仕方なく別居生活
になっているのでもよいのです。

別居結婚

結婚したのに、別々に暮らさなくてはいけないという
のは、結婚生活が壊れているようなものです。

夫婦でありながら一緒に住んでいないのは、その部分
が崩れている結婚です。そのように考えるのです。

結婚運の悪い宿命の人は、このような結婚に合ってい
ます。

結婚運の悪い人が結婚をして、ご主人が単身赴任とか
で離れ離れになってしまうと、夫婦仲が良くなったり
します。

ところが……戻って来て一緒に暮らし始めると、夫婦
仲が悪くなってしまうことも起こります。

それゆえに“たまにしか合わないと仲がよい”という
ご夫婦も世の中にはいるわけです。

それは結婚運が悪い宿命の人なのです。

☞ もう一つ大事な結婚があります。

「結婚運が壊れている」それを“家庭が壊れている”と考えたときに、どのような家庭は壊れているのでしょうか……？

結婚すれば、ふつうは子供ができます。

ところが、結婚して子供が生まれなければ、その結婚は壊れている結婚になります。そのように考えるのです。

このことは、夫婦仲がとても良くても、あるいは夫婦ともに、子供を欲しくなくて、それにつくらなかったという理由であろうと、反対に子供を欲しくても出来なかったという理由であろうと……子供がいないというだけで、本来あるべき結婚の目的を達成できてない結婚と考えるのです。

人間も生き物である以上、男女が結婚して子孫が生まれなかったら人類滅びます。

これは人間以外のどんな動物でもそうです。

オスとメスが一緒になる最大の理由は、子孫を残すことです。

これが自然の摂理です。

人間は知能が高いので「私たちは子供を欲しくない」と考えたりしますが、自然の摂理からすれば、子孫を残さない結婚は、自然の姿とは、かけ離れている結婚だと考えます。

そうしますと、結婚運が壊れている宿命の人には、子供のいない結婚は合っていることになります。

子供のいない結婚

本人たちが、それを希望したのか、しないのかに関係なく、子供がいないのは、どこか自然に即さない家庭だと考えています。

⇒ 「とても結婚運の悪い宿命」のⒶさんがいます。

結婚運の悪いⒶさんが、結婚しようとしている相手のⒷさんは、再婚でもなく、年齢も釣り合いが取れていて、国際結婚でもないのです。

つまりⒷさんの結婚運は良いえます。

その場合で……どうしてもⒶさんは、Ⓑさんとの結婚を望んでいるし、Ⓑさんも望んでいます。どうでしょう

このような場合、「子供を作らないほうがよいですね」と、アドバイスをすることもあります。

☞ 「結婚運が悪い宿命の人」ということで、いくつか挙げてきました。

ここまでの結婚の姿は……宿命に合っていますから、宿命どおりの結婚ということになります。

そういう結婚をすると幸せになれます。

結婚運が悪いのに、普通のように、釣り合いの取れた、バランスの良い相手と結婚してしまうためにうまくいかなくなるのです。

それは宿命に合っていないからです。

このように考えるわけです。

☞ ただし……相手はまた別ですよ。

相手もこういう結婚が合っているとは、決まっています。

ご理解いただけますでしょうか……。

⇒ 「結婚運の悪い人」と「結婚運の良い人」が結婚するとします。

〔夫は結婚運が悪い〕〔妻は結婚運が良い〕としましょう。

夫 ⇒ 結婚運が悪い（初婚）

妻 ⇒ 結婚運は良い

→ × 1（バツイチの女性）

この男性は結婚運の悪い宿命ですから、（× 1）の女性と結婚するのは宿命に合っています。

このような夫婦の組み合わせだと、うまく行くわけです。

女性は結婚運が良いのですから、（× 1）ではなくて、しっかり夫の役目をしてくれる男性と結婚すれば宿命に合っています。

このような夫婦の組み合わせだと、うまく行くわけです。

⇒ 相手との組み合わせを、具体的に観ていくことで、この人の場合は「こういう結婚がいいですよ」とか、この人の場合は「このほうがいいですね」とかを決めていくようになります。

「結婚運が悪い宿命の場合はこうですよ」とお伝えしました。

結婚運が悪い宿命は、何種類かあるわけですけど……ここまでお伝えしてように考えて行くようになります。

前回『人体図の見方②』で、雅子様の宿命を観たときに子供の星がなかったわけですよね。

子供の星がないからといって、その人は子供を生んではいけません。ということではないわけです。

このことは間違えないでください。

人体図〔鳳閣星・調舒星〕という子供の星がないわけですから、「子供にこだわらない生き方、子供にとらわれない生き方をすると良い」ということでしたよね。

つまり、どのような宿命であっても、その宿命に即した生き方が必ずあるのです。

これから^{あと}後、学びが進むにつれて、〔財運が悪い宿命〕とか〔親と縁がない宿命〕とか、さまざまな宿命が出てきます。そのときに「これは良くない宿命だ」そのように思わないでください。このことは大切ですよ。

必ず、その宿命に合った生き方があるわけです。
その人でなければ、果たせない役目があるのです。

〔たとえば〕世の中の人たちすべてが、おなじような結婚をしたら、世の中の発展も、進歩も、多様性も、なくなってしまうでしょう。

なかには……国際結婚をする人が現れて、この夫婦の子供はハーフになります。

人類にとっても、民族的にもニュータイプです。

そういう子供が生まれ、成長して、世の中の進歩発展に貢献こうけんできることになります。

世の中に多様性が生まれるのです。

ご存知のように、アメリカは人種のるっぼ坩堝るっぼです。

そのなかからスーパースターが生まれています。

音楽にしても、スポーツにしても、科学もです。

それゆえに、結婚運が悪い人にも役目があるのです。

その人でなければ、できない結婚があるわけです。

算命学はそのように考えています。

上級生になりますと、さまざまな姿が出てきますので、具体的によくわかるようになります。

ここでは「運勢」はこのように考えていきます。と、ご説明しました。

勉強が進んでいくようになりますと、そのなかで……
すごく運勢が悪い宿命という人もいます。

「ひどく運勢が悪いなら、不幸になるしかない……」
そうではないのです。

運勢が悪い人は、こういう生き方が合っていますよ。
そういう考え方が算命学にあります。

〔たとえば〕運勢がとても悪い人は、人の嫌がる仕事に就きなさいとか、人の嫌がる汚い仕事とか、きつい仕事、危険な仕事、いわゆる 3 K の仕事に従事するとよいのです。

その生き様は、宿命に合った生き方になります。

そうすることで、宿命が生きてくるのです。

『魂』を磨き、人間性を高めることになります。

自然の意思は、見掛けではないのです。

真の姿を見いだすのです。

運勢がとても悪い宿命の場合は〔体裁のよい生き方〕

〔表面を飾るような生き方〕あるいは〔楽な生き方〕

を選んでしまうと宿命から外^{はず}れてしまうのです。

『魂』^{たましい}を磨き、人間性を高めることで、運勢を安定させます。

宿命から外れると、結果的に運勢が開かないのです。

苦勞が多い宿命と書いてあれば、苦勞が多い生き方、あるいは、苦勞が多い仕事を選ぶことによって、その人は役目が果たせ、その人なりの幸せになれる生き方になって行くのです。

運勢を観るときには、このような考え方も横たわっているのです。

このことを、必ず頭に入れておいてください。

☞ 一般に「努力すれば報われる」と言われます。

算命学には『そういうことはない』とする考え方が
あります。

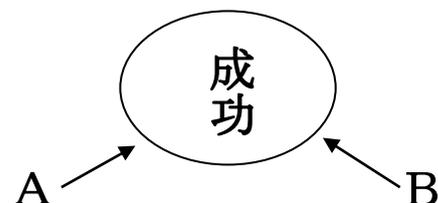
それはどうしてなのかといえ、各人にはそれぞれの
やり方、それぞれの生き方があるからです。

端的にいえば、何を目標に努力するのか……どこに向
かって努力するかということです。

いくら努力しても、報われない分野もあります。

この分野なら、報われるという分野もあります。

〔たとえば〕 何の分野でもよいのですが、ここに成功
した **A** さんがいます。お金で成功したでもいいです。
知恵で学者として成功したでもいいです。



A さんが「私はこういうやり方をして成功しました」
といったとします。

それなら…… B さんも、おなじやり方をすれば、成功しそうに^{おも}想えますけど、「成功しません」というのが、算命学の考え方です。

① 何に向かうのか？〔何に対して努力するのか？〕

② そのときのやり方

この 2 つがありますが、「各自それぞれに異なる」と、考えています。

算命学は「宿命どおりに生きなさい」といいます。

水準はありますが「その人なりにやれば、その人なりの成功がある」としています。

参考・水準〔物事の価値や作用の一定の基準〕〔世間で通用する標準〕

〔たとえば〕1 万円儲かった人と、100 万円儲かった人では、どちらが成功したのか、わからないのです。それは年齢なども影響します。

小学校・低学年の子供にとっては、1 万円は大きいお金でしょう。大人にとって 1 万円は小さいわけです。

スポーツの競技選手として、一流になろうと努力しても……その人に向いていなければ、いくら努力しても無理です。

二流になれたとしても、一流になることは絶対にできません。

二流になるのも、至難の技といえるかもしれません。

「努力が報われる」そうなるには……まずはそのことに対しての素質があり、それに向かい合うだけの才能があり、そして努力した結果として報われるわけです。これは芸術の分野でもそうです。

一流のピアニストになろうと努力してもなれません。このことはあらゆる分野に共通していえることです。それゆえに、算命学は「宿命どおりに生きなさい」という言い方をしているのです。

参考・素質〔個人が生まれつきもつ、性格や能力などの基になる能力〕

参考・才能〔個人の一定の素質、または訓練によって得られた能力〕

☞ ここに「結婚運のよい人」います。

結婚運のよい人は、一般的な（普通の）結婚をするのが「宿命どおり」と考えています。

☞ ここに「結婚運の悪い女性」がいたとします。

そうすると「宿命どおりに生きなさい」ということですが、結婚して不幸になるのが、宿命どおりかという疑問が出てきますよね。

——結婚運が悪いから、結婚すると、すべて失敗するということは考えていません。

結婚運が悪ければ、結婚運の悪い（一般的でない）結婚をすればよいと考えています。

結婚運が悪いというのは、この場合“不完全な結婚“を意味し、不完全な結婚に向いているのです。

釣り合いの取れない結婚に向いているということです。

☞ 不完全な結婚の姿ということで列挙します。

つぎの頁 ➡

- ❖ 女性が年上で、男性が年下]
- ❖ 別居結婚（仲が悪いのではなく、単身赴任・海外赴任・遠洋漁業など）
- ❖ 夫が妻より、10 歳以上年上
- ❖ 家の格の違う結婚（相当に開きがないと、格が違うとはいいません）
- ❖ 身障者の結婚（片方でも、身障者同志でもです）。
- ❖ 妻が働く（妻が主で働きます。妻が家計の助けにパートをやっているのは別です）。
- ❖ 国際結婚（1 番釣り合いの取れない結婚と考えます）。
結婚は、お互いに育った環境などの共通項が多いほど馴染みやすいのですが、国際結婚は環境も言語も違います。
それなのに結婚生活がうまくいくのは、結婚運が悪いからといえます。

❖ 再婚相手との結婚（完全な結婚の姿は初婚同志です）

〔たとえば〕女性を基本に設定します。

結婚相手の男性に子供がいたという場合に、その女性の結婚がうまくいったのは、女性の結婚運が悪かったということになります。

❖ 再婚同志の結婚

再婚しても、再々婚しても、うまくいかなかったというのは結婚運のよい人なのです。結婚運のよいのに……初婚のとき、相性の悪い女性（または男性）と結婚したから、離婚になったわけです。

もともと結婚運が悪い人なら、再婚のときに、結婚運の悪い人に合った相手に巡り会えるわけです。

しかし、再婚とかで、何度結婚してもうまくいかないのは、本来は「結婚運がよい人」ということでもあるわけです。

それゆえに、何度結婚してもうまくいかないのです。

❖ 子供のいない夫婦

結婚の大きな理由の一つの条件として、子供が生まれるということが入っています。それは子供が生まれてから、結婚が

完成するという考え方があります。

そうしますと……結婚運が壊れている宿命の人には、子供のいない結婚は合っていることになります。⇒参照 21 頁

☞ 結婚にはそれぞれに適合した形があるわけです。

〔結婚運が悪いから、結婚して、幸せになれないとは限らない〕

〔結婚運が良いから、結婚して、幸せになれるとは限らない〕

「その選択を間違ってしまうと不幸になりますよ」ということなのですが、一般的には、結婚運が良いという人のほうが選択肢は広いです。

結婚運が悪い人のほうが選択肢は狭いです。

でも、宿命どおりに歩めば、幸せになれるわけです。

☞ 「財運が悪い」とか、「頭が悪い」とか、そのような人がいれば、その宿命に沿って生きればよいのです。つまり、財運が悪いのに、一生懸命に金儲けをしようと思うからお金で苦しむのです。



袋にお金をいくれ入れても、穴が開いているために、お金が出てしまいます。これは財運が悪いということです。

そうしますと「財運の悪い人」はどのような生き方をすれば良いのか……ということになります。

これは学者にしても、将棋の世界でもおなじです。

「どうしたら良いのか……」です。

頭が悪い人は、知恵に^{こしつ}固執した生き方をするとダメですが、知恵にこだわらなければ、それなりの世界で知恵を発揮できます。

〔たとえば〕「財運のよい人」がいたとします。
その人はお金儲けの知恵があるということです。
しかし、学者としての知恵ではないのです。

〔たとえば〕健康運の悪い人もいますけど、その人は
病気になれば宿命どおりなのかといえ、そうではあ
りません。

☞ 固有の宿命のなかで、個人の運勢を論ずることがで
きます。

これを伸ばせば良いと思えるものは、1つくらいかも
知れませんが、それを生いかせばよいのです。
宿命のなかの良いいものを活かします。

それ以外の悪いものは、どのように扱あつかえば……物事が
進んでゆくのか……ということになります。

簡単にいえば……、

運が良いものには〔こだわって生きる〕ことです。

運が悪いものには〔こだわらないで生きる〕ことです。

宿命的に「何々には運が悪い」とでていれば、それに
相対するように、「何々には運が良い」とでているはず
です。

〔たとえば〕結婚でいえば……、
結婚運の悪い人は、些細なことにこだわると、結婚が
うまくいきません。こだわらないことです。
そうすれば〔よい結婚〕になるのです。

参考・こだわる〔些細な点を気にかける〕〔何かに気持ちがとらわれる〕

〔そのものごとに深い思い入れをする〕

❖ 一つ〔例〕を挙げましょう。

❖ 宅間 守 1963(s38)-11-23

	庚	癸	癸		調舒星	天報星	6 壬戌
戌	午	亥	卯	玉堂星	鳳閣星	司祿星	16 辛酉
亥		甲		天恍星	調舒星	天印星	26 庚申
	己		癸				36 己未
	丁	壬	乙				46 戊午

2001-6-8 大阪・国立池田小学校へ乱入（児童 8 人を刺殺）

人体図はとても頭のよい宿命です。

人体図の主星は〔鳳閣星〕で 縦線に〔調舒星〕が 2 星あり、多い星を消化しなければならないのが算命学の考え方です。

特に主星〔鳳閣星〕、そして〔調舒星〕 2 星が相当します。

これら 3 星は〔縦線の星・精神性の星〕です。

この星に向く職業ということでは、学問・芸術の分野ですが、彼が殺人を犯したという事実からして、これらの星を消化していなかったことが挙げられます。

彼は合コンのパーティーで「精神科医」の名刺を提示していたようですが、その分野の資格をもっていません。

高校を中退して自衛隊に入隊しますが、1年ほどで除隊しています。その後は、婦女暴行などで懲役の実刑判決を受けて刑務所に収監されます。

「精神科医」ではなく、学歴も名誉もなく、あるのは犯罪歴です。これでは精神性の星〔3星〕が未消化になります。

このように宿命に反したな生き方は……運が良いものにこだわって生きていない姿です。

本来の生きるべき道筋を誤ると運勢はどんどん下降します。簡単にいえば、宿命どおりの生き方ではなかったのです。

⇒ 上級になると、「守護神法」を勉強しますが、彼にとって第一に必要な守護神は日支（午）の本元にある〔丁火〕です。

守護神は「宿命を生きやすくしてくれるもの、活かしやすくしてくれるもの」そのように捉えておいてください。霊的ではないですよ。

彼の日干「庚金」から、その丁火をみると、〔牽牛星〕という十大主星になります。

牽牛星を五徳〔福寿禄官印〕になおすと、〔官〕になります。

〔官〕の意味は〔名誉・地位〕と考えてください。

ところが、彼には学歴がないし、資格もない、地位もないわけです。それなのに「精神科医」の名刺をだすのは、学歴などへの劣等感の現れです。過度の劣等感があったわけです。その卑屈な劣等感が「小学校から高等教育の道へ進む児童」に向けられたと考えられます。

ここでなにを申しあげたいのか……、

☞ 固有の宿命のなかで、個人の運勢を論ずることができます。

これを伸ばせば良いと思えるものは、1つくらいかも知れませんが、それを生かせばよいのです。と書きました。

良いものを活かして〔こだわって^い生きる〕ことです。

上記のように 36 頁にも書いてあります。

彼の宿命でいえば、〔鳳閣星〕〔調舒星〕にこだわって生きるということです。水火の激突もありますから、精神の葛藤も激しいわけです。十二大従星は身弱で精神性が強いです。

宿命が精神的なほうへ傾いています。それにこだわらないで生きると、運が悪くなるといえるのです。

精神的の反対は現実的、端的にいえば、もの・お金・名誉とかです。ここでの運が悪いものというのは現実的なことです。

それを得るためには、まずは精神的な面を消化することから
はじまります。

〔鳳閣星・調舒星〕を消化することで、それなりの現実的な
事柄はあとから付いてくるのです。

なぜなら、研究者の道を歩めば、それに相当する金銭なり、
名誉なりが付いてくるわけです。

算命学は「宿命どおりにいきなさい」「宿命を消化しなさい」
という言葉がたびたびつかわれます。

〔宅間守〕でいえば、まずは〔鳳閣星・調舒星〕を消化する
ことなのです。

ご理解しにくい部分もあるかと想いますが、上級に進むに
つれて、納得して頂けるようになります。

【初年】 5 1 回目 【運勢論】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 5 2 回目 【十二大従星指数】

【エネルギー論】